

① 有機フッ素化合物（PFAS）について

水道水の有機フッ素化合物（PFAS）汚染がメディアに取り上げられ、安心安全が当たり前だと思っていた水道水に多くの住民が注目していることから、以下の質問をします。

- (1) 国の暫定目標値ではPFASのうち、「PFOA」と「PFOS」という2種類の物質についての目標値があり、町ホームページの水質検査結果では浄水、原水ともに目標値内であったが、この数値についてどのように考えているのか。
- (2) 長崎市との新浄水場共同整備事業が進められているが、本町の水源となるJR長崎トンネル湧水についての水質検査は行われているか。また、長崎市の水源である浦上ダムと萱瀬ダムの水質検査は行われているか。
- (3) PFASは人工的に作られた有機フッ素化合物の総称で、水や油をはじくことから、泡消火剤、フライパンのコーティング、撥水スプレーなどに使用されていたようです。新浄水場の3つの水源に影響を与える範囲に、過去にさかのぼってPFASを取り扱う事業所が存在していたかどうかの調査が必要と考えるがどうか。

② 公共施設の更新計画について

本町の公共施設の更新計画について町公共施設個別施設計画によると、これから30年以内に目標使用年数を迎える施設がたくさんあり、学校施設も30年以内に更新を必要とする施設があると考えられることから以下の質問をします。

- (1) 老朽化した公共施設の更新は、更新費用の支出を平準化するためにも早めに取り組むべきだと考えます。ふれあいセンターの目標使用年数が2030年、長与町公民館の目標使用年数が2032年となっており、この2つの施設の更新が迫っていると思いますが何か計画はあるか。
- (2) 本町の令和5年度決算の将来負担比率はマイナスでありました。公共施設の集約化・複合化のための地方債や、脱炭素の推進のための地方債など、交付税措置率の高い地方債を利用し、老朽化した公共施設を更新することは大変有意義だと考えるが、町の財政計画はどのように考えているか。

③ 高田南土地地区画整理事業地内の保留地の一般競争入札について

高田南土地地区画整理事業地内の保留地（宅地）を売却するために令和4年度に12宅地、令和5年度に4宅地、令和6年度に4宅地に対して行われた一般競争入札について、以下の質問をします。

- (1) 令和4年度の12宅地は入札者数も多く12宅地すべて売却されたが、令和5年度は4宅地のうち2宅地が入札者無し、令和6年度は4宅地のうち3宅地が入札者無しであったが、この結果をどのように考えているか。
- (2) 高田南土地地区画整理事業地内に保留地はあとどのくらいあるか。
- (3) 保留地の販売方法として、あらかじめ売却価格を決めて抽選で当選者を決める方法もあり、こちらの方が販売価格の上昇を抑えることができると思うがどうか。